

教科書では学べない 「大切なこと」 交流の中で学んでほしい

クラブ活動で地域の人から「本物」を教わる小学生。

さわやかサミットでは、

小・中学生と大人が真剣に議論する。

学校と地域がつながり、

多様な学びを届ける三島中学校本部

その活動に込める思いとは――。



地域で暮らすさまざまな分野の専門家が、先生を務める三島小のクラブ活動。12あるクラブのうち、料理や手芸、自然体験など7つで地域の子どもたちに学びを届けている。今年4月に三島小に赴任した深澤校長は教師生活を振り返り、「クラブ活動にここまで多くの人が関わっている例はあまりない。地域のつながりの強さや温かさを感じた」という。

子どもたちが自らの意思で活動を選び、話し合いながら計画を決めるクラブ活動。「三島小では、地域にいる専門家の方から「本物」を学べる。子ども

たちの将来にも、その体験は生きていくと思う」と話し、「この活動ができているのは前任の伴校長先生や地域の活動推進員の矢板さんや吉野さんの努力のおかげ」と感謝の気持ちを続けた。

interview



三島小学校 校長
深澤 桂一 先生



女の子にも人気の自然体験クラブでは、火起こしを体験。焼いたマシュマロはひと味違う。



手作りの黒板ボードを作成した工作クラブ。慣れない作業に四苦八苦しながら、お気に入りの作品を仕上げている。

初めての教壇に立った時から36年の年月が過ぎ、核家族化や情報通信技術の進展など、子どもたちを取り巻く環境の変化を目の当たりにしてきた深澤校長。地域全体で取り組む教育の意義について尋ねると、「今の子どもたちに大切なのは自分に自信を持つこと。自尊心を高めるためには、色々な大人から愛情が注がれる経験が必要」と答えてくれた。

「何事も経験。頭で理解しても、実際に経験しなければ学べないことの方が多い」。地域の人々の多様な価値観に触れながら、「本物」を学ぶ三島小のクラブ活動。地域の人に支えられ、豊かな学びの機会が届けられている。

三島中学校で昨年からは開催している「さわやかサミット」。小・中学生と地域の大人たちが年に2回、熱く議論している。



「さわやかサミット」など、地域と協働の取り組みを進める三島中学校。地域連携教員の藤田先生から現場の様子と今後について話を聞きました――



三島中学校
地域連携教員
藤田 勤 先生

本校では児童生徒に加え、PTAや地域の方がテーブルを囲んで意見を交わす「さわやかサミット」を実施しています。今年は地域から50人以上に参加していただきました。「いじめの撲滅」をテーマとし、難しい議論でも必死に理解しようと耳を傾け、自らの意見も伝えようとする子どもたちの積極的な姿勢が印象的でした。いきいきとした自然な笑顔や真剣な表情は、私も

感動を感じるほど。地域の参加者からも好評を頂きました。

ここは、従来から地域と学校が連携し、地域のお祭りやボランティア活動に子どもたちが参加したり、学校行事に地域の大人が参加したりと、交流が盛んです。これからは学校と地域が互いに協力するパートナーとして連携を深め、子どもたちの健やかな育みが支えられればと思います。



さわやかサミット

interview